



ごあいさつ

横浜市南部ミニバスケットボール連盟
マリンボールカップ実行委員会
会長 藤原 敬一

お陰様で、第37回マリンボールカップ大会が開催できる運びとなりました。

参加されましたチームの選手と関係者の皆さん、ようこそマリンボールカップ大会にお出でくださいました。心より歓迎致します。選手の皆さん、日頃の練習で培った成果を思う存分発揮してください。そしてこの横浜の地に集った仲間と、バスケットボールを通して交流をしていただければ幸いです。

各県のミニバスケットボール連盟の理事長をはじめ関係者の皆様、また今回ご参加いただく各チーム関係者の皆様、そして神奈川県ミニバスケットボール連盟の皆様、日頃より多大なるお力添えをいただきまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます次第です。

さて、今年の4月14日に起きました熊本地震では、死者49人、負傷者1,496人という大惨事となりました。亡くなられた方に哀悼の誠を捧げますとともに、被災された方が一日でも早く、心安らかに暮らせる日が訪れますことを、願うばかりであります。そして、あの痛ましい東日本大震災から5年と4か月が経ちました。未だ復興・復旧ままならずといった感があります。被災者の方の心安らぐ日が1日も早く訪れることを願って止みません。私たちはこのような大災害を決して風化させてはなりません。一人ひとりがしっかり心に留め置き、自分にできることを考えて行動しなければならないと思います。

ここでマリンボールカップの誕生につきまして紹介いたします。

今から37年前、まだ県外同士の交流戦や関東エリアでの冠大会がなかった時代でした。関東地域で技術の交流や審判の交流ができないものかと模索したのがきっかけでした。

第1回の大会は、関東・東海地区の強豪チーム（ほとんどが関東大会、東海大会に出場チーム）の参加でした。プレ関東大会と言われた所以です。こういった中で行われたマリンボールカップは、それぞれの県を代表するチームによる技術の発表の場でもあり、関東及び東海地域の技術交流に微力ではありましたが貢献できたのではと自負しております。

また、当時はミニバスケットボールでは審判の公認制度がありませんでした。ですからミニで日本公認の方もいない状況でした。大会では、それぞれの県の派遣の方、チーム帯同の方、神奈川県公認、日本公認（ミニ以外のカテゴリー）の皆様のお力添えで、大会が運営されていきました。大会を重ねる毎に審判の技術も向上していったと記憶しております。

いよいよ8月にリオデジャネイロでオリンピックが開催されます。日本の女子『アカツキファイブ』が出場します。ぜひメダルを目指して全力でがんばってほしいと思います。日本中が盛り上がり、熱い声援を送りましょう。

結びになりますが、今後とも本大会の意義を尊重し、参加されます選手にとってはもちろんのこと、チーム関係者の皆様にとりましても思い出に残る、充実した大会となりますように運営に心掛ける所存でございます。関係の皆様におかれましては、主旨をご理解いただきまして、ご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。本大会の成功を祈念しつつ、敬意と感謝を申し上げご挨拶とさせていただきます。